



酪農試験場だより 号外



輸入牛の親子(12月7日分娩)

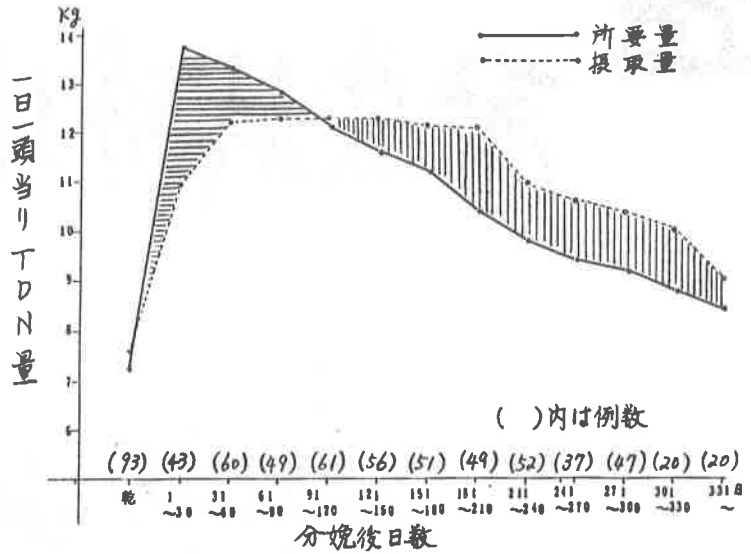
内容紹介

- 自給飼料分析指導事業を活用しましょう。
- 自給飼料分析指導事業のサンプル受け付け法などの変更。

酪農の生産性向上には

— よい牛・よいえさ・よい給与 —

自給飼料分析指導事業を活用しましょう



乳期別 TDN 所要量と摂取量

昨今酪農経営をとりまく情勢はまことにきびしく、経営体質強化の必要性が強く叫ばれていますが、経営体質強化において最も重要なことは“よい牛”をつなぎ“よい飼料”をつくり、“上手に給与する”ことです。増頭するのではなく、逆に頭数を削減して産乳能力を目一杯引出してゆくのが今後の経営の方向です。

調査によれば、農家の飼料給与の現状は上図のようです。実線が1日のTDN摂取量で横斜線の部分は養分の不足を縦斜線の部分は養分の過給を示しています。つまり分娩から3~4ヶ月目をさかいにして牛の養分充足状況がちがって来ており、泌乳前期には飼料の給与量が大中に不足し、泌乳中後期にはかなりの過給与になっています。

泌乳前期の養分不足は、ケトージスをはじめとする代謝障害や乳質(無脂乳固形分)低下、低受胎の原因となります。また産乳能力の高い牛は、泌乳前期の養分不足が全乳期に影響して、その能力を十分発揮できずに終わります。

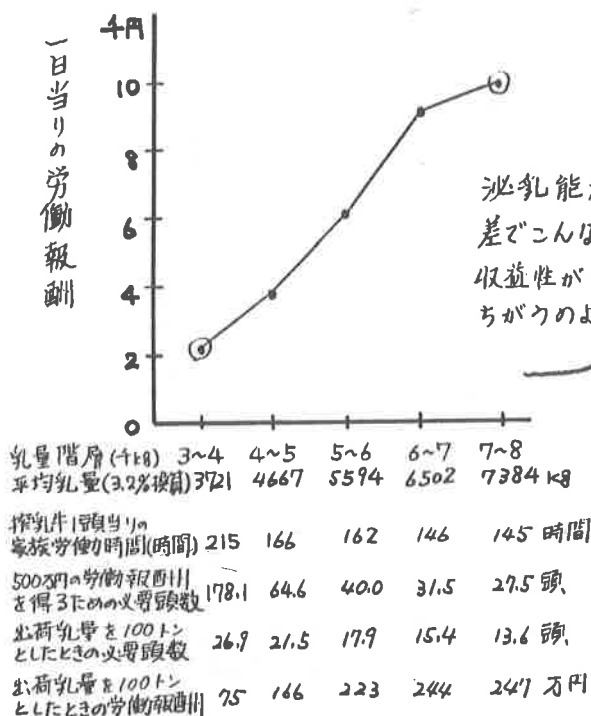
泌乳中後期の養分過給与は過肥の原因となり、これもまた、いろいろの障害発生のもとになります。

自給飼料分析指導事業はこのような不合理な飼料給与状況を改善し、産乳水準を総合的に引き上げるために行なわれています。

特に泌乳前期の養分不足を改善するためには飼料給与診断票に打ち出されている“DM体重比”“TDN濃度”“粗せんい率”等の指標値を活用して牛の状態に合った飼料給与を行うことが必要です。また、乾乳期には“Ca給与率”“ $P_{2}O_5$ ”等の指標を活用して代謝障害の発生を防がなければなりません。これらの指標値の活用方法は“酪農試験場だより”の「ウシエ」「モーコ」の対話を通じて解説していますがくわしいことは農業改良普及員に聞いて下さい。

自給飼料分析指導事業では一回の飼料分析について飼料給与診断(無料)は何回でも行います。適正な飼料給与量が見つかるまで、何度でも飼料給与量変更案を酪農試験場へ送りこんで下さい。数日中にこれに対する診断票を手もとへお返しいたします。そのうちに合理的な飼料給与のつぼが見つかるようになるでしょう。

このようにして産乳水準が高まれば、下図に示されているように酪農経営の収益性は著しく高まります。

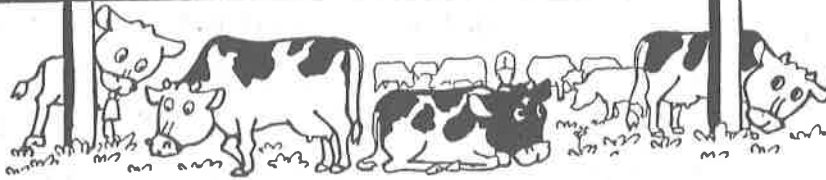


泌乳能力の差でこんなに収益性がちがうのよ!



乳用牛の能力差と収益性(59年全国)

自給飼料分析指導事業の
サンプル受付け法などの変更



この事業について、「いつでも」「どんな飼料でも」「正確かつ迅速に」分析できる体制の整備が要望されていますが、酪農試験場では、これらの要望に応えるため、サンプル受付け法などを下記のように変更しました。

1. サンプル受付け日

サンプルの受付け日は、「自給飼料分析指導事業のしくみ」ですでお知らせしたとおりですが、臨時受付け日として次の両日を追加し、全県下よりサンプルを受付けます。

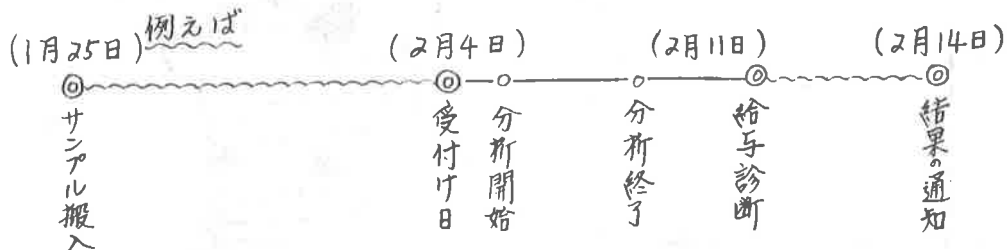
昭和61年2月4日及び3月4日

2. サンプル受付け点数

受付け点数は制限しません。

3. サンプルの搬入法

サンプル搬入は、受付け日の10日前から可能です。(ただし結果の通知は所定受付け日の7日～10日後になります。)



4. 分析可能飼料

イタリアン、トウモロコシ、ソルガム及びイタリアン小麦のサイレージ、乾草、ヘイキューブ。

酪農試験場だより号外 昭和60年12月18日	栃木県酪農試験場 〒329-27 那須野野原本郷298 電話 02873-6-0230
---------------------------	---